令和６年３月３１日
校長　佐藤　幸司

令和５年度　東京都立赤羽北桜高等学校学校経営報告

１　今年度の教育活動の取組みと成果

教職員一丸となって教育活動の充実に向けて努力し、本校初の卒業生を無事に送り出すことができた。

（１）教育課程・学習指導

①授業の充実

・特別専門講師や大学教授等の講義・講演など、専門性の高い外部機関の人材を積極的に活用し、将来を見据えた質の高い授業を実施した。

・保育・栄養科の「課題研究」（ＳＴＥＰ、ＭＡＰプロジェクト）をはじめ、都の施策である民間ＯＢ活用事業等を活用した思考力・判断力・表現力の育成に重点を置いた学習指導を実現した。

・保育・栄養科の卒業発表会、調理科の卒業制作展をはじめ、年度末の学習成果発表会や学習単元の節目に行うプレゼンテーション、学習発表等により、生徒の思考力・判断力・表現力の育成及び、学習の定着を図った。

・介護福祉科の国家試験受験に向けて集中授業や補習を行うことで個別・最適な学びを心掛け、一期生全員の合格を実現した。

・専科の授業の基礎となる基幹科目として、普通教科の授業改善に努めるとともに、複数の教科で専門科目との教科横断型授業を実施した。

・普通教科による社会人学力の育成の一環として、漢字検定、英語検定の受検を促し、多くの生徒がそれぞれの級で合格した。また漢字コンテストで本校が団体賞を受賞した。

・一人一台端末、teams、その他 ICT 機器の活用により、効率的、効果的な学習指導を推進することができた。教科それぞれが工夫してオンライン学習デーを効果的に実施した。

・資格取得や各種コンクールに積極的に参加し、概ね成果を上げることができた。一部教科で前年度の実績を下回っているが、生徒が学びの成果を実感できる効果を重視し、引き続き推進を図る。

②授業時間の確保・特別活動・道徳

・養成施設としての授業時数の確保に努め、長期休業期間における授業や時程及び土曜授業の見直し等を行った。実習に伴う授業時数の増減や国家試験に向けた集中授業の実施に伴い、時間割の変更等で専門科目と普通教科の授業時数の調整を丁寧に行った。

・「総合的な探究の時間」、「人間と社会」、「課題研究」「探究ゼミ」や、その他各授業における探究的な学びにおいて、外部機関との連携も活用しつつ、体験的・実践的な活動を積極的に実施した。

・新型コロナウイルス感染症の５類移行に伴い、細心の注意を払いながらも、生徒の活動に制限なく活発に各学校行事を行うことができた。

（２）進路指導

①生徒一人一人の進路実現に向けた支援体制の強化

・これまで締結した大正大学、女子栄養大学、星美学園短大、淑徳大学、に加え、東京女子体育大学・東京女子体育短期大学とも高大接続の協定を締結し、さらなる進路指導の充実を図った。

・民間ＯＢ活用事業により「特命進路専門員」を継続して置き、定期的に進路指導全般への助言を得るとともに、生徒の面接指導、小論文指導の充実を図ることができた。

・さまざまな外部連携機関の方からの講演を実施し、進路意識の高揚を図った。

・高大接続をはじめ、複数の上級学校の協力で本校独自のキャンパスツアーを実施した。

・一期生の卒業体験報告会を実施し、二期生、三期生の進路意識を高めることができた。

②進学に向けた補習・講習と進路行事の充実

・自習室を管理し、自学自習を推進した。

・東洋大学の学生の協力により放課後学習支援を定期的に行った。

・各教科による補習を実施し個別最適な学びを推進、基礎学力の定着を図った。

・夏季休業期間に実施した中学生体験授業や北区の福祉研修会に指導的立場で生徒を参加させ、学力の定着や進路意識の醸成の機会とした。

（３）生活指導

①基本的生活習慣の確立を図る。

・「生徒心得５カ条」に基づく生活指導の徹底を図った。

・生徒会及び有志による朝の挨拶運動を実施するとともに、ホームルームや授業を通して、挨拶の大切さについて指導を継続した。

・交通安全について警察との連携により講演会（セーフティ教室）を実施した。

・身だしなみ指導を継続的に実施するとともに、服装に関する規定について生徒会を通じて生徒の意見を反映できるよう検討を行った。

②生命を尊重した指導を徹底する。

・いじめアンケートを実施し、自らと他者を尊重する意識の醸成、いじめの未然防止に努めた。

・担任とスクールカウンセラー、専門医派遣事業における精神科医と連携し、生徒の状況把握に努めた。

（４）心身の健康づくり

①体力の促進

・目標と課題意識を持たせて新体力テストを実施し、結果を活用した「体育」の授業を実施した。体力テスト結果に基づく表彰を行い、生徒の意欲の醸成に努めた。

・食や運動、体力に関する外部講師等の講義・講演を行い、各自の生活習慣の改善を図った。

②交通事故の未然防止

・赤羽警察署と連携して交通安全に関するセーフティ教室を実施し、生徒の交通安全への意識を高めた。

・自転車事故への注意喚起を行い、ヘルメットの着用を継続的に指導した。

（５）専門高校の特色ある教育活動

①スペシャリストの育成

・保育・栄養科において、保育園や関連施設への体験・見学授業を多く実施し、また校内では実践的な授業・実験・演習を多く行うとともに、家庭科技術検定（食物・保育）を継続的に実施した。

調理科においては、独自の検定のほか、様々なコンクールに応募し、多数の優秀な成果をあげた。また、北区の食育フェアに参加するなど、多様な体験的・実践的授業を行った。

介護福祉科においても作文コンクール等での入賞、生活体験発表会関東地区入賞及び全国大会進出決定のほか、北区のステップアップ研修への協力や福祉広報誌への協力などで生徒が活躍した。

・「総合的な探究の時間」や各専科の授業において、企業やＮＰＯ代表から学びを得る機会や、連携先の大学の教授から大学で学ぶ意義等について講義を受け、生徒の学問的探究意欲を喚起した。

（６）地域との交流・広報活動

①応募者数の確実な確保

・X（旧 Twitter)、インスタグラムやホームページで各科をはじめ、行事や学校の様子などを頻繁かつ積極的に発信した。

・生徒、教員による中学校訪問を行い、本校への理解を促進した。

・生徒を中心に据えたサマースクール等の体験授業を実施した。

・外部での学校説明、出前授業や中学校での進路講演会への参加に努めた

②探究活動・地域連携の充実

・インターンシップや施設実習の受け入れ協力を得て、地域と連携した取組を実施した。また、学校行事や保育・栄養科の授業等で地域施設との交流や園児等の来校により実施した。

・多目的ルーム活用の充実を図り、地域と連携したイベントを推進するため、調理科のスクールレストラン、卒業制作展を実施した。

（７）学校経営・組織体制・経営企画室

・企画調整会議、職員会議等の活用により情報の共有を推進した。

・３科の主任を企画調整会議に参加させ、分掌・専科、学年及び経営企画室の連携を密にし、それぞれからの提案を全体で協議し、課題を共有できる体制を整えた。

・修繕箇所の把握に努め、速やかな修繕計画や工事等を実施した。

・副校長、経営企画室長と毎朝学校運営について意見交換をし、学校運営に対する経営企画室の参画を推進した。

・安全衛生委員会において校内の安全衛生状況を共有し、対策を図るとともに、時間外勤務状況の把握を実施し、是正に努めた。

・感染予防を徹底し、細心の注意を払い、状況に応じて一部オンライン授業を併用しながら教育活動を推進した。

・服務研修を実施し、服務事故「０」を実現した。

・電話対応、窓口対応等、接遇に留意した。

・予算編成・執行等、教員と企画室とで連携し有効活用を図った。

・民間ＯＢ活用事業や広報活動など、経営企画室と学科・分掌との積極的な連携による業務推進を行うことができた。

２　今年度重点目標の学校経営計画における数値目標と今年度の達成状況及び課題

１　授業改善

（１）研究授業への参加（一人１回）、相互の授業参観（一人３回）

約４割の教員が取り組んだ。互いに授業を見合う教員間の関係形成や気軽に取り組むための雰囲気の醸成に努める必要がある。

（２）生徒による授業評価（年１回以上実施）

教務部が Forms を活用し、１回実施した。科目による評価であったため、習熟度や少人数授業の科目については、教員個人の評価が得られなかった。具体的な授業改善に結びつけるため、授業内で各々が生徒による授業評価を実施している状況も見られる。次年度については、教務部が中心となり、実施する時期を早め、改善内容についても再度評価できるようにする。

（３）手帳の活用（年３回以上の確認）

担任の９割が手帳活用の確認を行っているが、確認にとどまっていた。どのように手帳の活用を図るのか、教員の研修も実施できなかったため、次年度は研修を確実に行う必要がある。

(4) 各種資格・検定合格者（生徒一人一つ以上）

保育・栄養科による家庭科保育技術検定、家庭科食物調理技術検定、調理科の料理検定・菓子検定、介護福祉科の福祉検定等、各科においては各種資格や検定への指導の充実がみられた。次年度も継続し、上級への受験や合格率の向上を図る必要がある。

（５）各種コンクール入賞（１０件以上）

総合的な探究の時間の取組や調理科、介護福祉科の取組によって、１０件以上の入賞があった。次年度は、多くあるコンクールの規模や応募時期などを精査し、保育・栄養科においても入賞を実現させる。

（６）オンライン研修・校外研修（半数教員）

中部学校経営支援センター支所が実施している授業参観プログラムへ若手教員が参加した。次年度は、同プログラムへの参加教員を増やすとともに、指導教諭による模範授業や支所管内における他校の授業について情報収集し、積極的に参観できるようにする。

２　募集対策

（１）学校 HP の更新（100 回以上）

今年度より HP 更新に加えてＸやインスタグラムの活用が加わった。更新回数は早い時期に 100 回を超え、次年度も中学生やその保護者にわかりやすい各科の情報提供についての充実を継続する。

（２）授業公開・体験授業の工夫

６月から１月まで授業公開を実施した。夏季休業中においては、３科による中学生向けの体験授業も実施することができた。次年度は回数や内容について精査して取り組む。

（３）学校説明会等の工夫

１０月から実施した説明会においては、全体会を短縮し、各科の説明を丁寧にするとともに、今年度も生徒の広報委員が学校案内等をしている。参加者からの高評価があり、次年度も継続して実施する。

（４）学習内容、学習成果の校内外への発信による専門高校魅力発信（２回）
２月に卒業発表会・卒業制作展を実施し、東京都教育委員会のフォトニュースで紹介された。３月には学習成果報告会も実施することができた。保護者の参加も見られ、今後も専門高校の魅力が伝わるよう発信を継続する。

３　探究活動・地域連携

（１）協定締結校との打合せ（月１回）
大正大学とは定期的に打合せを実施することができ、相互交流も深め、活動の定着化がみられるようになってきている。新規に東京女子体育大学・東京女子体育大学短期大学と協定の締結ができた。

（２）高大連携事業（６回以上）
大正大学とは１学年の総合的な探究の時間において、図書館オリエンテーション等、連携することができた。東洋大学とは放課後等における学習支援活動も行うことができるようになっており、次年度も継続する。

（３）自治会との連携事業（６回以上）
考査期間中であるため、自治会主催の防災運動会に今年度は参加することができなかった。

（４）地域活性化のための提案プログラム（10 件以上）
自治会との連携や地域における活動については、５月に公開講座を行い、稲付地区の餅つき歌等の伝承を専科の授業で実施することができた。次年度は、北区の後援ももらい、公開講座も含め、地域との連携を強化していく。

（５）成果発表（全員）
家庭学科においては、一期生による卒業発表会、卒業制作展を実施することで成果を発表した。介護福祉科においては、介護福祉士国家試験の合格 100％を達成することができた。

（６）学校評価アンケート（連携先）
学校評価アンケートについては、項目を精査する必要があることや回答率を上げるための工夫が必要であり、連携先への学校評価アンケート実施はまだできていない。